(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6202523号
(P6202523)
(45)発行日　平成29年9月27日(2017.9.27)　(24)登録日　平成29年9月8日(2017.9.8)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 55/02 (2006.01)　　B65D 55/02
B65D 47/08 (2006.01)　　B65D 47/08　120

請求項の数 5　(全 13 頁)

(21)出願番号　特願2013-227494(P2013-227494)
(22)出願日　平成25年10月31日(2013.10.31)
(65)公開番号　特開2015-85979(P2015-85979A)
(43)公開日　平成27年5月7日(2015.5.7)
審査請求日　平成28年4月26日(2016.4.26)

(73)特許権者　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100186358
弁理士　齋藤　信人
(74)代理人　100191145
弁理士　佐野　整博
(72)発明者　井田　辰春
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内
(72)発明者　宮入　圭介
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

審査官　宮崎　基樹

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ヒンジキャップ

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器の口部に装着されるキャップ本体と、キャップ本体とヒンジを介して連設された上蓋とからなるヒンジキャップにおいて、
キャップ本体には、外周面に係合凸部が設けられ、
上蓋は、ヒンジによって開閉し閉蓋状態でキャップ本体と協働して容器内を密封する上蓋本体と、上蓋本体の外周面に回転可能に取り付けられたロックリングとからなり、
上蓋本体は、頂壁と、頂壁の周縁部から垂設された側周壁からなり、側周壁の外周面の所定個所には、位置決め突起が設けられ、
ロックリングは、内周面には係止突起が設けられ、下端部には連結部が垂設され、
閉蓋状態でロックリングを回動することによって、係止突起が位置決め突起を乗り越えるとともに、連結部が係合凸部と係合し、閉蓋状態を維持することを特徴とするヒンジキャップ。
【請求項２】
連結部の内周面には、内方に張り出したフック部を有する係合溝が周方向に延設されており、閉蓋状態でロックリングを回動することによって係合溝が係合凸部に嵌合し、フック部が係合凸部の下部に入り込むようになっていることを特徴とする請求項１に記載のヒンジキャップ。
【請求項３】
位置決め突起の周方向両側の側周壁外周面には、ロックリングの不必要な回動を阻止す

るストッパー部が所定の間隔を置いて突設されていることを特徴とする請求項１または２に記載のヒンジキャップ。
【請求項４】
少なくとも連結部が係合凸部に係合する締結回転方向と反対側のストッパー部には、締結回転方向と反対側になだらかな傾斜面が形成されていることを特徴とする請求項３に記載のヒンジキャップ。
【請求項５】
キャップ本体には、注出口を形成する注出筒が設けられ、
上蓋本体の頂壁の裏面に、注出筒の内面に当接して容器内部を密封する密封筒が設けられており、
密封筒の下端のヒンジ側には、開蓋途中で注出筒内面に接する舌片が垂設され、舌片と注出筒には、上蓋の所定開度において互いに嵌合する中間係止部がそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項１～４のいずれかに記載のヒンジキャップ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、上蓋がヒンジを介してキャップ本体に連設されたヒンジキャップに関し、とくに、上蓋を確実に閉じて閉蓋状態を維持するロック機構を備えたヒンジキャップに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
ドレッシングなどを充填した容器では、注出する直前に容器を振って内容液を攪拌して使用するが、上蓋が確実に閉じられていないと容器を振ったときに内容液が漏出して周囲を汚してしまうため、上蓋が確実に閉じられて密封され、その閉蓋状態が維持されていなければならない。
ヒンジキャップには、通常、上蓋とキャップ本体とに互いに係合してシール部を形成する係合部が設けられているが、容器を勢いよく振ったときには、上蓋が開いたり密封が弱まって漏出したりする危険があり、上蓋を押さえて容器を振る必要があった。
【０００３】
また、飲料や化粧品などの容器では、開封後に再度閉蓋して持ち歩くようなとき、外力によって不用意に開蓋したり内容液が漏出したりする危険があった。
このような要請から、開封後に確実な閉蓋状態を維持するためのロック機構を備えたヒンジキャップが、近年提案されてきている。
たとえば、上蓋のつまみを形成する折り返し指掛かり部２１が下端縁２１ａを幅広にした逆Ｔ字状とされ、同形状の開口部が設けられた円筒部９（キャップ本体）に収容されることによって、上蓋を押し上げる力が作用しても、当該下端縁２１ａが開口部に干渉、係合して開蓋を防止するようにしたロック機構を有するヒンジキャップが、特許文献１に記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１１－２１９１１０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、上記特許文献１記載のヒンジキャップでは、上蓋を押し上げる力に対しては開蓋を阻止することができるが、折り返し指掛かり部２１の広幅の下端縁２１ａが開口部周縁に当接しているだけなので、折り返し指掛かり部２１が何かに引っ掛かって開口部から引き出されたり、横からの衝撃を受けて開口部から飛び出したりすれば、閉蓋状態を維持することができないという問題があった。

【０００６】
本発明は、上記問題を解決することを課題とし、開封後に再度閉蓋する際、簡単な操作で確実に閉蓋状態を維持し内容液の漏れを防止するとともに、外力の作用によって簡単に解除されることがないロック機構を備えたヒンジキャップを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明は、上記の課題を解決するため、ヒンジキャップとして、容器の口部に装着されるキャップ本体と、キャップ本体とヒンジを介して連設された上蓋とからなるヒンジキャップにおいて、キャップ本体には、外周面に係合凸部が設けられ、上蓋は、ヒンジによって開閉し閉蓋状態でキャップ本体と協働して容器内を密封する上蓋本体と、上蓋本体の外周面に回転可能に取り付けられたロックリングとからなり、上蓋本体は、頂壁と、頂壁の周縁部から垂設された側周壁からなり、側周壁の外周面の所定個所には、位置決め突起が設けられ、ロックリングは、内周面には係止突起が設けられ、下端部には連結部が垂設され、閉蓋状態でロックリングを回動することによって、係止突起が位置決め突起を乗り越えるとともに、連結部が係合凸部と係合し、閉蓋状態を維持することを特徴とする構成を採用する。
【０００８】
ヒンジキャップの具体的実施形態として、連結部の内周面には、内方に張り出したフック部を有する係合溝が周方向に延設されており、閉蓋状態でロックリングを回動することによって係合溝が係合凸部に嵌合し、フック部が係合凸部の下部に入り込むようになっていることを特徴とする構成、また、位置決め突起の周方向両側の側周壁外周面には、ロックリングの不必要な回動を阻止するストッパー部が所定の間隔を置いて突設されていることを特徴とする構成、さらに、少なくとも連結部が係合凸部に係合する締結回転方向と反対側のストッパー部には、締結回転方向と反対側になだらかな傾斜面が形成されていることを特徴とする構成を採用する。
【０００９】
ヒンジキャップのさらなる具体的実施形態として、キャップ本体には、注出口を形成する注出筒が設けられ、上蓋本体の頂壁の裏面に、注出筒の内面に当接して容器内部を密封する密封筒が設けられており、密封筒の下端のヒンジ側には、開蓋途中で注出筒内面に接する舌片が垂設され、舌片と注出筒には、上蓋の所定開度において互いに嵌合する中間係止部がそれぞれ設けられていることを特徴とする構成を採用する。
【発明の効果】
【００１０】
本発明のヒンジキャップは、上蓋本体の外周面に回転可能に取り付けられたロックリングの下端部に垂設された連結部が、閉蓋状態でロックリングを回動することによってキャップ本体の係合凸部に係合するロック機構を備えているから、開封後に再度閉蓋したときに、上蓋外周のロックリングを回動するという簡単な操作で確実に閉蓋状態を維持して内容液の漏れを防止する。
【００１１】
さらに、係合溝が係合凸部に嵌入する際に、ロックリングの内周面に設けられた係止突起が抵抗をもって乗り越えるだけの高さを有する位置決め突起を側周壁の外周面に設けた実施形態では、ロックの解除を確実に防ぐことができるとともに、乗り越え時のクリック感により、確実にロック状態となったことを使用者が感知することができる。
また、位置決め突起の周方向両側の側周壁外周面に、所定の間隔を置いてストッパー部が突設されている実施形態では、ロックリングの不必要な回動を阻止して、使用感を向上させることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】本発明の実施例であるヒンジキャップの閉蓋状態を示す側面断面図。
【図２】本発明の実施例であるヒンジキャップの開蓋状態を示す図であり、（ａ）は上面

図、（ｂ）は断面側面図。
【図３】本発明の実施例であるヒンジキャップの開蓋状態を示す下面図。
【図４】本発明の実施例であるヒンジキャップのロックリングを嵌合する前の開蓋状態を示す側面図。
【図５】本発明の実施例であるヒンジキャップのロックリングを示す図であり、（ａ）は下面図、（ｂ）は図（ａ）のＸ－Ｘ断面矢視図、（ｃ）は図（ａ）のＹ－Ｙ断面矢視図。
【図６】本発明の実施例であるヒンジキャップのロック解除状態を示す図であり、（ａ）は図１のＥ－Ｅ断面矢視図、（ｂ）は図（ａ）の要部拡大図。
【図７】本発明の実施例であるヒンジキャップのロック開始状態を示す図であり、（ａ）は図１のＥ－Ｅ断面矢視図、（ｂ）は図（ａ）の要部Ｆ拡大図、（ｃ）は図（ａ）の要部Ｇを下方から見た拡大図。
【図８】本発明の実施例であるヒンジキャップのロック状態を示す図であり、（ａ）は図１のＥ－Ｅ断面矢視図、（ｂ）は図（ａ）の要部拡大図。
【図９】本発明の実施例であるヒンジキャップの開蓋途中における係止状態を示す断面側面図。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
次に、本発明のヒンジキャップについて、実施例を示した図面を参照して説明する。
【実施例】
【００１４】
図１～９において、Ａはキャップ本体、Ｂはヒンジ Ｃを介してキャップ本体Ａに連設された上蓋本体Ｂ１とロックリングＢ２とからなる上蓋、Ｄは容器本体である。
【００１５】
図１に示すように、容器本体Ｄの口部１は、外周面に環状の係合突条２が設けられ、キャップ本体Ａの係合筒部４に嵌合されている。
図１～４に示すように、キャップ本体Ａは、容器内と連通する注出口を形成する注出筒５と、注出筒５に上壁６の内周縁で連設し、上壁６の下部に垂設された外筒７，内筒８からなる係合筒部４とからなっている。
【００１６】
上壁６の周縁から垂設された外筒７と、その内周側に垂設された内筒８とは、口部１が嵌合する嵌合溝を形成している。
外筒７の外周上縁の所定位置にはヒンジ Ｃが設けられ、上蓋本体Ｂ１が連設されている。
外筒７の外周上縁のヒンジ Ｃと反対側には、後述するロックリングＢ２の連結部６１と係合して閉蓋状態を維持する係合凸部９が、周方向所定幅に突設されている。
また、上壁６の上部には、上蓋Ｂを係止する蓋係止部１０が環状に立設され、その上部には外方に突出する膨出部１１が設けられている。
【００１７】
係合筒部４には、使用後に容器本体Ｄからヒンジキャップを分離して廃棄するための分別機構が設けられており、該分別機構は、外筒７の軸方向に設けられた外周切り込み部１５と内周切り込み部１６からなる縦方向引き裂きラインと、破断可能な縦薄肉部１７を介して縦方向引き裂きラインに接続するスリット溝１８が上壁６上面から周方向所定範囲にわたって穿設され、スリット溝１８の底部に形成された破断可能な横薄肉部１９からなる周方向引き裂きラインとを具えている。
【００１８】
注出筒５は、先端に向かって外方にラッパ状に広がって形成されたリップ部２０と、中間筒部２１と、中間筒部２１の下端に連設し容器内部（注出口）を密閉する隔壁２２とを具えている。
隔壁２２には、破断可能な薄肉弱化部２３により画成され、隔壁２２から切り取られることによって容器内部と連通する注出口を形成する除去部２４が形成されており、除去部

２４の上部には、ヒンジＣ側に立設する支柱２５を介してプルリング２６が連設されている。
プルリング２６には、ヒンジＣの反対側下部に薄肉の指当て部２７が設けられている。
【００１９】
注出筒５のリップ部２０のヒンジＣ側内周面には、後述する上蓋Ｂの舌片４０の係止凹部４１に嵌合係止する係止凸部２８が設けられており、当該係止凸部２８が注出筒５側の中間係止部を形成している。
係止凸部２８は、ヒンジＣを中心とする周方向所定幅に形成され、リップ部２０の先端部付近に、先端側から注出口方向に向けて漸次高さを増すように肉盛りされた凸面と、その下縁にリップ部２０内周面に対して略垂直な壁面を形成する上係止段部２９とからなっている。
【００２０】
上蓋Ｂは、キャップ本体Ａにヒンジで連設され、ヒンジＣを中心に開閉可能に回動する上蓋本体Ｂ１と、上蓋本体Ｂ１の外周面に回転可能に取り付けられたロックリングＢ２とからなっている。
上蓋本体Ｂ１は、頂壁３１と、頂壁３１の周縁部から垂下する側周壁３２と、頂壁３１の裏面から垂設された密封筒３３とからなっている。
【００２１】
密封筒３３の下端３５の外周面には、注出筒５の内周面に当接する環状のシール部が形成され、下端３５のヒンジＣ側の半周には、舌片４０が垂設されている。
舌片４０は、軸方向断面が弓形状をなし、舌片４０の外周面は、上蓋Ｂを開閉する際に注出筒５のリップ部２０の内周面を摺動するように湾曲面を形成している。
舌片４０は、所定周範囲にわたって最も高く形成された先端部を有する山形をなし、先端部には、外周面に面取りをしたカット面４３が形成されて、付着した内容液が滴下しやすいように鋭角な尖端が形成されている。
【００２２】
舌片４０のカット面４３に続く外周面の先端部付近には、注出筒５の係止凸部２８が嵌合する係止凹部４１が設けられている。
舌片４０側の中間係止部を形成する係止凹部４１は、先端側に外周面に略垂直な壁面を形成する下係止段部４２と、係止凸部２８の凸面に対応するように下係止段部４２の底縁から舌片４０の基部側に向かって深さが漸次浅くなる凹面とからなっている。
係止凹部４１は、係止凸部２８と嵌合したときに、上係止段部２９と下係止段部４２がかみあって上蓋Ｂがそれ以上開かないように係止するとともに、凸面と凹面の嵌合によって上蓋Ｂが所定の開度に維持されるようになっている。
【００２３】
本実施例では、舌片４０はヒンジＣ側の半周に設けられているが、必ずしも半周にわたって設けられる必要はなく、舌片４０の上記山形形状等についても、開蓋途中で注出筒５内周面に接して付着液の垂れを防止することができれば、適宜変更可能である。
上蓋Ｂを開蓋途中で係止する中間係止部は、本実施例では、注出筒５の側に係止凸部２８を、舌片４０の側に係止凹部４１を設けているが、逆に、注出筒５の側に係止凹部を、舌片４０の側に係止凸部を設けてもよく、適宜選択可能である。
【００２４】
側周壁３２の外周面には、頂壁３１側から下方に向けて上段中径部４５，中段小径部４６，下段大径部４７の３つの径の周面が形成され、上段中径部４５と中段小径部４６との間には小段部４８，中段小径部４６と下段大径部４７との間には大段部４９が形成されている。
上段中径部４５と中段小径部４６には、ロックリングＢ２が嵌合され、上段中径部４５の外周面とロックリングＢ２の内周面とは、摺動可能となるようわずかな隙間を有している。
【００２５】

図４および図６～８に示すように、中段小径部４６には、大段部４９から軸方向に延びる突出リブ５１が周方向に４個所設けられており、ロックリングＢ２の内周面を支持してガタつきを防いでいる。

また、中段小径部４６の上部には、位置決め突起５２と、位置決め突起５２から周方向に所定間隔を配して前方ストッパー部５３，後方ストッパー部５４がそれぞれ突設されている。

位置決め突起５２と前方ストッパー部５３，後方ストッパー部５４との間隔は、少なくとも後述するロックリングＢ２の係止突起６４が嵌入し得る周方向幅に設定される。

【００２６】

位置決め突起５２、前方ストッパー部５３、後方ストッパー部５４が配置される周方向位置は適宜決定し得るが、本実施例のように、他の部材に干渉されることのないヒンジＣとの連設位置から中心角で略９０°開いた位置に配置されることが望ましい。

突出リブ５１も、その数、配置される周方向位置および軸方向位置については、位置決め突起５２、前方ストッパー部５３、後方ストッパー部５４に干渉しない限りは適宜決定し得るが、上段中径部４５とともにロックリングＢ２の内周面を支持するためには、軸方向で下方に設けることが好ましい。

【００２７】

前方ストッパー部５３，後方ストッパー部５４は、位置決め突起５２とほぼ同じ軸方向高さに形成され、その位置決め突起５２側では周面にほぼ垂直なそれぞれ垂直壁面５３ａ，５４ａ、位置決め突起５２の反対側ではなだらかに傾斜したそれぞれ傾斜壁面５３ｂ，５４ｂが形成されている。

位置決め突起５２の突出高さは、ストッパー部５３，５４よりも若干低く設定されている。

また、側周壁３２の内周面の下端近傍には、蓋係止部１０の膨出部１１と嵌合して上蓋Ｂを閉蓋しシール部を形成して密封状態を保持する係止溝５７が設けられている。

【００２８】

図５に示すように、ロックリングＢ２は、環状のリング本体６０と、リング本体６０の下端外周部に周方向所定幅で垂設された連結部６１とからなり、リング本体６０の外周面にはローレット加工が施されている。

リング本体６０の内周面には、所定周方向位置４個所に係止リブ６３が周方向所定幅に突設され、連結部６１の周方向位置から中心角で略９０°開いた位置に係止突起６４が突設されている。

係止リブ６３の数や配置位置は適宜決定し得るが、周方向に均等に配置されていることが望ましい。

また、係止突起６４は、必ずしも連結部６１の周方向位置から中心角で略９０°開いた位置に限定されず、位置決め突起５２，ストッパー部５３，５４との係合に支障がない範囲で適宜決定し得る。

【００２９】

係止リブ６３は、上部に、上蓋本体Ｂ１の小段部４８に当接してロックリングＢ２の上蓋本体Ｂ１からの離脱を阻止する係止上面６３ａと、下部に、ロックリングＢ２を上蓋本体Ｂ１の外周面に嵌合するための嵌合傾斜面６３ｂが形成されている。

同様に、係止突起６４にも嵌合傾斜面６４ｂが形成されている。

リング本体６０の下端縁６６が、大段部４９に摺動可能に当接し、係止リブ６３の係止上面６３ａが小段部４８に摺動可能に当接するように、係止上面６３ａの軸方向高さ位置が決定される。

リング本体６０は、上蓋本体Ｂ１に嵌合して下端縁６６が大段部４９に当接したとき、上端縁６７が頂壁３１と略同一の高さになり、外周面が下段大径部４７の外周面と略一致するように設定すれば、外観が優れたものとなり好ましい。

【００３０】

連結部６１の下端部には、内周面に係合凸部９が嵌入し得る係合溝６８が、周方向の一

端部から突き当たり部６９まで所定長さ形成され、連結部６１の周方向中央付近から突き当たり部６９までの下端縁には、係合凸部９の下端に係合するフック部７０が径方向内方に張り出している。

次に、本実施例の使用態様と作用効果について説明する。

【００３１】

まず、本実施例のヒンジキャップは、別体に成形されたロックリングＢ２を上蓋本体Ｂ１に嵌合して取り付ける。

図４に示されるように、開蓋状態になっている成形直後のキャップ本体Ａと上蓋本体Ｂ１は、閉蓋した上で上蓋本体Ｂ１の上方からロックリングＢ２を押圧嵌合する。

この際、図６に示されるように、ロックリングＢ２の係止突起６４が上蓋本体Ｂ１の位置決め突起５２と前方ストッパー５３との間に嵌入するように、上蓋本体Ｂ１とロックリングＢ２の周方向位置を一致させて上方から押圧する。

このように、係止突起６４を位置決め突起５２と前方ストッパー５３との間に嵌入すると、使用前にロックリングＢ２が不用意にロック状態になったり、不必要に回動することを防いで使い勝手がよい。

【００３２】

ロックリングＢ２を上方から押圧すると、係止リブ６３および係止突起６４が嵌合傾斜面６３ｂ，６４ｂを上蓋本体Ｂ１の上段中径部４５に当接しながら乗り越え、同時にロックリングＢ２の下端縁６６が大段部４９に当接して、ロックリングＢ２の取り付け工程が完了する。

なお、ロックリングＢ２の嵌合時に周方向位置がずれて、係止突起６４を位置決め突起５２と前方ストッパー５３との間に嵌入することができなかった場合でも、前方ストッパー部５３および後方ストッパー部５４には、それぞれ傾斜壁面５３ｂ，５４ｂが形成されているので、係止突起６４が傾斜壁面５３ｂ，５４ｂを乗り越えるようにロックリングＢ２を強制的に回動させれば、ロック解除状態に設定することができる。本実施例のように、必ずしも前方ストッパー部５３および後方ストッパー部５４にそれぞれ傾斜壁面を設ける必要はなく、少なくとも前方ストッパー５３に設ければ十分である。

【００３３】

嵌合されたロックリングＢ２は、係止リブ６３の係止上面６３ａによって上蓋本体Ｂ１からの離脱が阻止され、同時に下端縁６６が大段部４９に当接することによってロックリングＢ２の軸方向位置が保持される。

また、ロックリングＢ２の内周面は、上段中径部４５と突出リブ５１とによって、ガタつきを防ぎながら摺動可能に支持されている。

【００３４】

容器に装着されたヒンジキャップは、開蓋され、既知の要領でプルリング２６を引き、除去部２４を取り去って開封される。

容器を使用した後、再度閉蓋して注出筒５と密封筒３３、および蓋係止部１０と係止溝５７によって容器内を密封された閉蓋状態を確実に保持するために、本実施例のヒンジキャップは、図６～８に示されるようなロック操作を可能としている。

まず、図６に示されたロック解除状態では、ロックリングＢ２の連結部６１は、ヒンジＣの反対側から所定角度ロック解除方向［図７（ａ）に示される矢印のロック方向（締結回転方向）と反対方向：平面視で左回り方向］に偏奇しており、キャップ本体Ａの係合凸部９は、係合溝６８に一部嵌入しているがフック部７０には係合していない。

【００３５】

図６のロック解除状態からロックリングＢ２をロック方向（平面視右回り方向）に回動すると、係止突起６４は位置決め突起５２を乗り越えて、図７に示されるロック開始状態に移行する。

このとき、係合凸部９は係合溝６８内を突き当たり部６９に向けて進み、図７（ｃ）に示されるように、フック部７０は係合凸部９の下部に入り込みはじめる。

位置決め突起５２は、ロックリングＢ２の不用意なロック状態への回動を阻止するとと

もに、係止突起６４が乗り越えるときの抵抗によるクリック感を与えることにより、ロック操作が開始されたことを使用者に認識させることができる。

【００３６】

図７に示されるロック開始状態から、ロックリングＢ２をさらに矢印で示されるロック方向に回動していくと、図８に示されるように、連結部６１は突き当たり部６９が係合凸部９に当接するところまで回動し、ヒンジＣの反対側位置で回動を停止してロック状態が完成する。

フック部７０は、係合凸部９の下部に入り込み、係合凸部９によってロックリングＢ２の上方への移動が阻止されて上蓋Ｂの開蓋を確実に防止する。

フック部７０は、ロック状態において必ずしも係合凸部９の下端面に当接している必要はなく、開蓋を防ぐに十分な程度であれば多少の隙間を有していてもよい。

【００３７】

このとき同時に、係止突起６４は、後方ストッパー５４の垂直壁面５４ａに当接してロックリングＢ２のそれ以上の回動を阻止し、突き当たり部６９とともにロックリングＢ２をバランスよく停止させることができる。

なお、突き当たり部６９は必ずしも必要ではなく、係合溝６８は周方向に貫通されていてもよい。

このロック状態では、係止突起６４は後方ストッパー５４と位置決め突起５２との間に位置しているので、ロックリングＢ２に多少の外力がロック解除方向に作用しても、係止突起６４が位置決め突起５２を乗り越えなければならないため、容易にロック解除されることはなく、上蓋Ｂの開蓋を確実に防止することができる。

【００３８】

図９に示されるように、本実施例のヒンジキャップは、密封筒３３の下端３５のヒンジＣ側に、開蓋途中で注出筒５の内面に接する舌片４０が垂設され、舌片４０に設けられた係止凹部４１と注出筒５の係止凸部２８とが、上蓋Ｂの所定開度において互いに嵌合するようになっている。

このように、上蓋Ｂを開蓋途中の所定開度で係止することができるから、内容液の注出時に上蓋Ｂが邪魔になることがなく、上蓋Ｂに手を添えなくてはならないような面倒もない。

また、ドレッシングを充填した容器のように、使用前に閉蓋した状態で容器を振ったりする場合には、内容液が上蓋Ｂの内周面に付着することがあるが、再度容器を使用するために上蓋Ｂを開けたときには、係止されて立ち上がった上蓋Ｂの内周面に付着していた内容液は、ヒンジＣ側に流下して舌片４０を伝い注出筒５側に還流するから、付着液が垂れて周囲を汚すようなことがなく、清潔に使用することができる。

【産業上の利用可能性】

【００３９】

本発明のヒンジキャップは、上蓋のロックリングを閉蓋状態で回動するという簡単なロック操作で確実に閉蓋状態を維持して内容液の漏れを防止することができるとともに、外力の作用によってロックが簡単に解除されることがないから、子供やお年寄りでも安心して使用できる各種容器として広く利用可能であり、とくに内容液の漏れを確実に防止しなければならない携帯用の容器や、使用前に容器を振る際に上蓋を押さえる必要があったドレッシングの容器などに好適に利用できる。

【符号の説明】

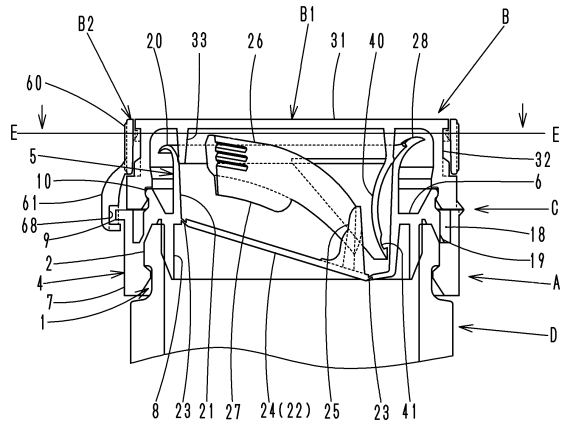
【００４０】

Ａ	キャップ本体
Ｂ	上蓋
Ｂ１	上蓋本体
Ｂ２	ロックリング
Ｃ	ヒンジ
Ｄ	容器本体

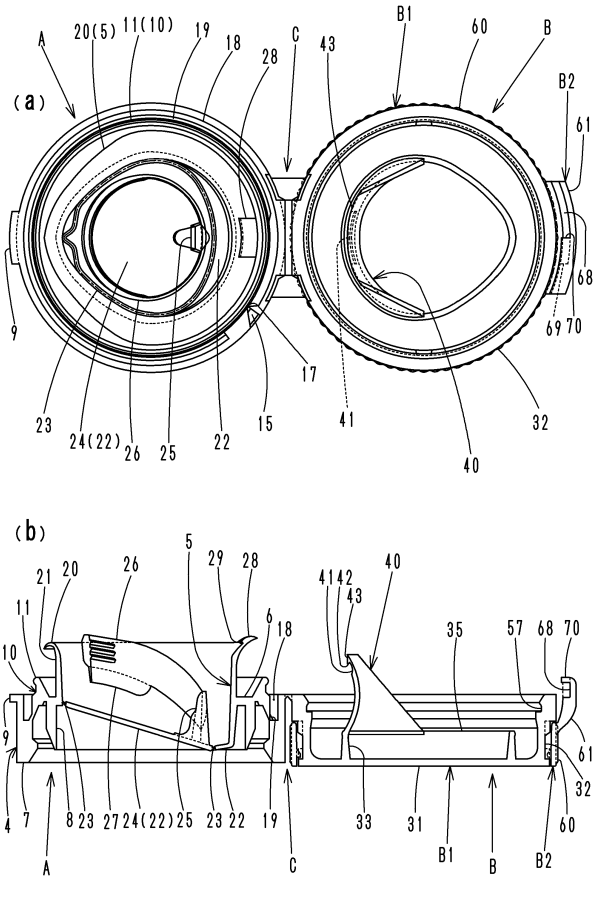
１	口部
２	係合突条
４	係合筒部
５	注出筒
６	上壁
７	外筒
８	内筒
９	係合凸部
１０	蓋係止部
１１	膨出部
１５	外周切り込み部
１６	内周切り込み部
１７	縦薄肉部
１８	スリット溝
１９	横薄肉部
２０	リップ部
２１	中間筒部
２２	隔壁
２３	薄肉弱化部
２４	除去部
２５	支柱
２６	プルリング
２７	指当て部
２８	係止凸部（中間係止部）
２９	上係止段部
３１	頂壁
３２	側周壁
３３	密封筒
３５	下端
４０	舌片
４１	係止凹部（中間係止部）
４２	下係止段部
４３	カット面
４５	上段中径部
４６	中段小径部
４７	下段大径部
４８	小段部
４９	大段部
５１	突出リブ
５２	位置決め突起
５３	前方ストッパー
５４	後方ストッパー
５３ａ，５４ａ	垂直壁面
５３ｂ，５４ｂ	傾斜壁面
５７	係止溝
６０	リング本体
６１	連結部
６３	係止リブ
６３ａ	係止上面
６４	係止突起

６３ｂ，６４ｂ	嵌合傾斜面
６６	下端縁
６７	上端縁
６８	係合溝
６９	突き当たり部
７０	フック部

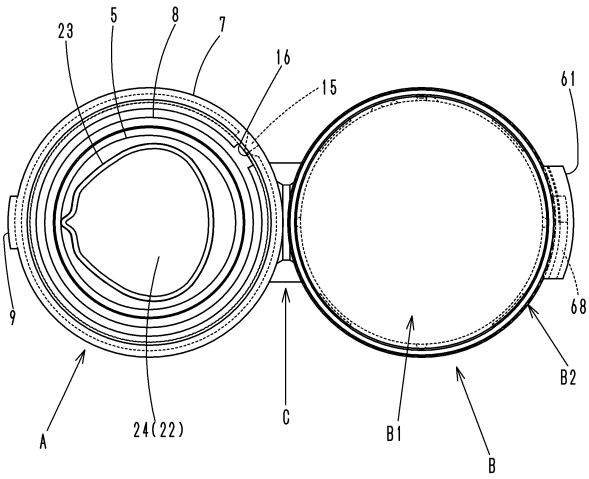
【図１】



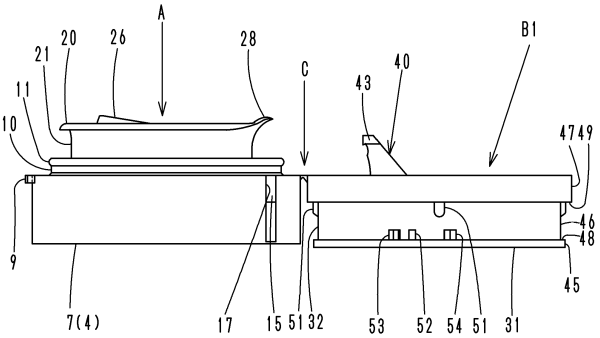
【図２】



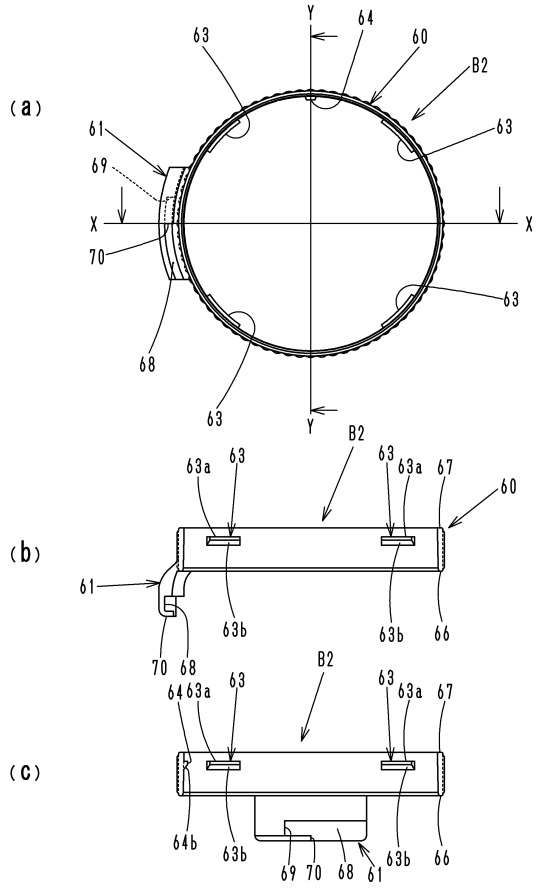
【図３】


23
5
8
7
16
15
61
9
68
A
24(22)
C
B1
B
B2

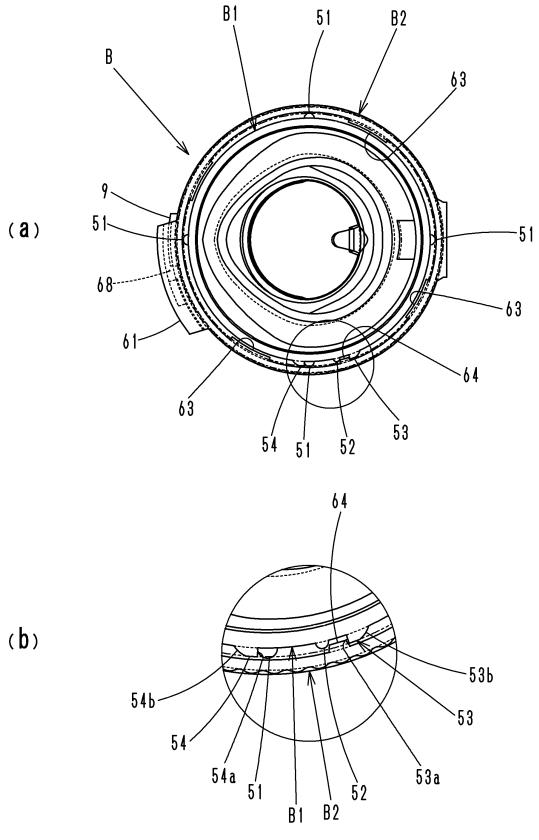
【図４】


A
20
26
28
21
11
10
C
43
40
B1
47
49
46
48
45
9
7(4)
17
15
51
32
53
52
54
51
31

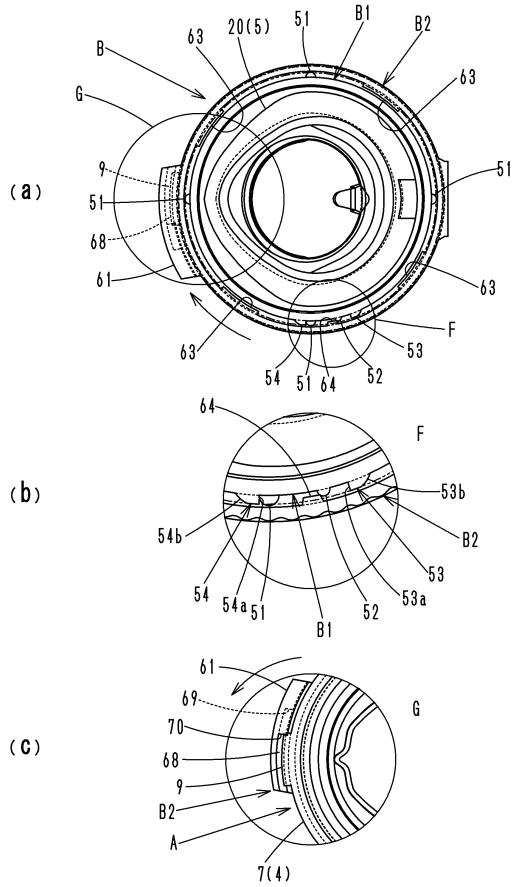
【図５】


(a)
Y
64
63
60
B2
61
69
63
X
X
70
63
68
63
Y
(b)
B2
63a
63
63
63a
67
60
61
63b
63b
66
70
68
(c)
B2
64
63a
63
63
63a
67
64b
63b
69
70
68
61
63b
66

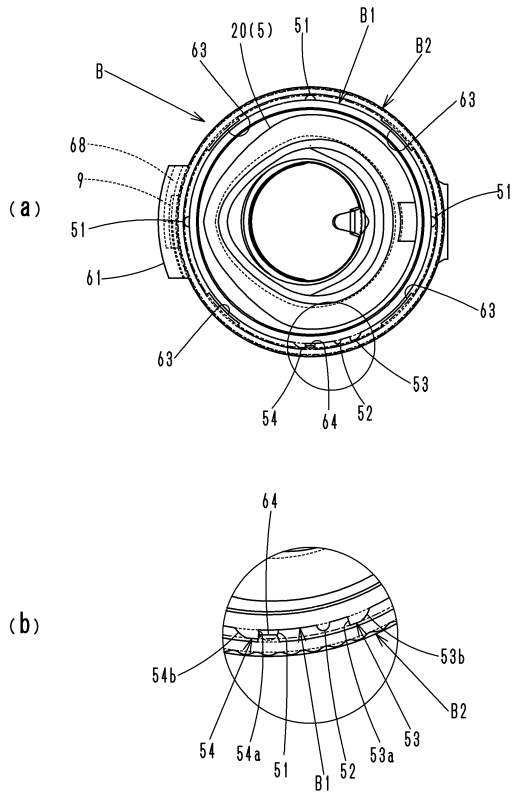
【図６】


(a)
B1
51
B2
B
63
9
51
51
68
63
61
64
63
54
51
52
53
(b)
64
53b
54b
53
54
54a
53a
51
52
B1
B2

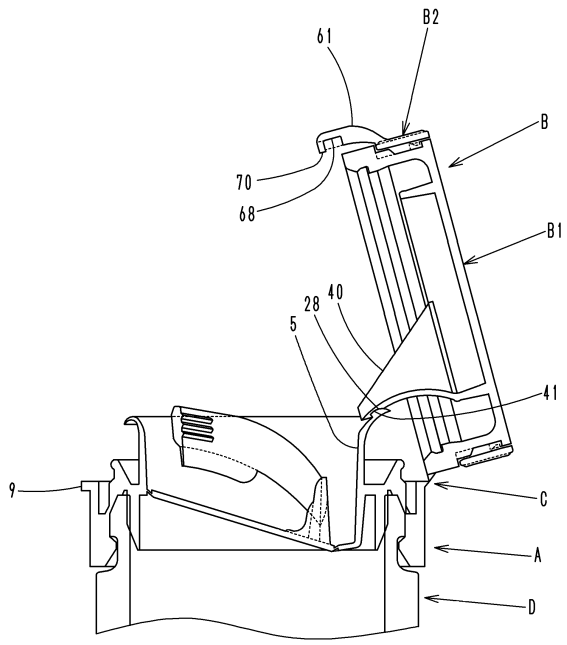
【図７】


(a)
B
G
63
20(5)
51
B1
B2
63
9
51
68
61
63
51
63
F
53
54
51
64
52
(b)
64
F
53b
54b
B2
53
54
54a
51
B1
52
53a
(c)
61
69
70
68
9
B2
A
7(4)
G

【図８】


(a)
B
63
20(5)
51
B1
B2
63
68
9
51
61
51
63
63
53
54
64
52
(b)
64
54b
53b
B2
54
54a
51
B1
52
53a
53

【図９】


61
B2
B
70
68
B1
28
40
5
41
9
C
A
D

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００３－０６３５５３（ＪＰ，Ａ）
実開昭６３－０９７６５６（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０７８２７４（ＪＰ，Ｕ）
特開平０９－１８８３４６（ＪＰ，Ａ）
特開２００２－１５４５７１（ＪＰ，Ａ）
実開平０５－０２６８４９（ＪＰ，Ｕ）
特開平１０－３３８２５９（ＪＰ，Ａ）
実開昭６３－０９７６５７（ＪＰ，Ｕ）
特開平１１－３２１９１２（ＪＰ，Ａ）
米国特許第０５５２０２９６（ＵＳ，Ａ）
米国特許第０４３８５７０６（ＵＳ，Ａ）
特開２０１１－２１９１１０（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ ３５／４４－３５／５４
Ｂ６５Ｄ ３９／００－５５／１６